令和８年度　長崎大学教育学部附属小学校　学校だより

「らしさ」輝く附属小



第２７号　令和８年１１月１７日（火）　校長　森内　秀学

揃え、重ね、合わせた先の、素敵な歌声

お知らせしておりましたように、11/12（木）は、ブリックホールで小音会が行われました。観覧に来てくださったたくさんの保護者の皆様、ありがとうございました。

下の写真は、その時の様子です。



【動きをつけながらいきいきと「ドレミのうた」を歌う２年２組の子どもたち】



【美しいハーモニーで「365 日の紙飛行機」を歌う５年１組の子どもたち】

スキップをすると顔が自然と笑顔になるそうですが、どちらの学年の子どもたちも、動きをつけた歌の部分では、一層抑揚がついたり、表情が豊かになったりしていました。

歌に動きをつけると、こんなにも歌い方に変化が生まれるのかと大変驚きました。

歌い手の歌は音となって消えていきますが、聞き手の心にはしっかりと刻まれます。

揃えたり重ねたり合わせたりする練習を繰り返し、緊張を乗り越えてやり遂げた子どもたち。この経験は、きっと、人生の糧になることでしょうね。

教育で平和を作る



11/11（木）、５年生が、「日本地雷処理を支援する会」（JAMS）の六車昌晃さんをお招きして平和に関する総合的な学習を行いました（右）。

お話を聞いて驚いたのは、紛争地区の地雷を取り除くことだけが目的ではなく、取り除き方や取り除いたあとの土地を使った作物の育て方、その作物の出荷や販売網の整備など、「自活していくための術全体を教育する」ことを目的にされていることです。平和の作り方はいろいろあるのでしょうが、教育によってそれを成し遂げようという志は、子どもたちの心に強く響いていました。